

2025年



11月

# 草の根

BULLETIN OF THE AICHI COUNCIL AGAINST A&H BOMBS

発行 原水爆禁止愛知県協議会  
発行人 佐竹康行  
〒461-0004  
名古屋市東区葵1-22-26  
Tel(052)932-3219  
Fax(052)931-2651  
gensuikyo@lime.ocn.ne.jp  
毎月1回 6日発行  
月40円/年間480円

県内154,701筆

2025年10月10日 現在

日本政府に核兵器禁止条約の署名・批准を求める署名

10月24日から26日までの3日間にわたって「日本平和大会in愛知」が開催されました。日本平和大会は33年ぶりに愛知県での開催となりました。防衛費倍増、敵基地攻撃能力強化、殺傷武器輸出が強行される中で、全国で一位になるほど軍需産業が集中し、また第二次世界大戦中も多くの軍需産業が集まっていたため空襲による被害が大きかった愛知から大軍拡・戦争国家・死の商人国家



24日はオプショナルツアーとして、軍需産業を巡るフィールドワークが企画されました。全国、県内から参加者が多く集まり、8台のマイクロバスが満杯になるほどでした。県営名古屋空港の展望デッキから小牧基地を見学したり、F35戦闘機の組み立てや長距離ミサイルを製造している三菱重工の工場を外から見学したりしました。

軍需産業を巡るフィールドワーク

への道はストップの声をあげました。

大軍拡反対！平和の準備を  
2025年日本平和大会in愛知  
を開催

全国各地から  
1000人が  
集まり、学んで  
交流！

25日は、名古屋市民会館ビレッジホールで開会集会が行われ、ぞう列車合唱団の歌声で開会しました。参加者は1000人でした。

秋山正臣全労連議長の開会あいさつの後、千坂純日本平和委員会事務局長が主催者報告を行い、2015年に戦争法を強行し、集団的自衛権行使を可能にし、アメリカの海外での戦争に参戦する道を開き、2022年閣議決定した「安保3文書」で敵基地攻撃能力を大増強する大軍拡が押し進められてきました。この動きを阻止するために平和大会の中で学び、街の中で対話し、広範な世論にしようと訴えました。



戦後・被爆80年の原点からの訴えとして、名古屋空襲体験者の寛久江さんが「防空ごうが直撃を受け学友42人が亡くなった」と体験を語り、日本被団協2世委員会委員長の大村義則さんは、被爆者である父親の話に触れながら、アメリカの「拡大核抑止」にしがみつくと日本政府の態度を批判しました。

ロシアのウクライナ侵略に抗議するスタンディングを毎月、名古屋・栄で行っているPeace For Ukraineのメンバーは、SNSを通じてこれまで平和運動に関わったことのないメンバーも参加してくれ、これが活動を続ける力になっていると語りました。他にも、ガザ連帯行動の金城美幸さんや猿田佐世さんからの動画メッセージが流れました。

愛知からは矢野創県平和委員会事務局長から、軍需産業の集中する愛知県内の実情と軍需産業の拠点から平和の拠点にする取り組みが報告されました。

全国の運動交流では、新基地建設に反対する沖縄や長射程ミサイル配備に反対する熊本、静岡から発言があり、高校生平和ゼミナールからは高校生が訴える「日本政府に核兵器禁止条約への参加を求める署名」の活動な



どが報告されました。開会集会の後は「学びと交流のつどい」が、26日午前には分科会が行われ、戦争体験の継承、医療やくらし・福祉、韓国や台湾との運動交流、平和行政、気候危機、ジェンダーなど多様なテーマから平和を学び、交流を行いました。

民主会館を会場に開かれた分科会「2026年NPT再検討会議へ、被爆国から運動を一核兵器禁止条約に参加する日本を実現しよう」では、はじめに日本原水協の安井事務局長が報告を行い、その後に各地の活動交流を行いました。活動交流では、原爆パネル展・高校生の絵画展の報告が多くあり「会場の中で開催するより駅や市役所など人通りのあるところで展示を行うと、多くの人が足を止めて見てくれる」と報告がありました。



閉会集会後に  
600人で  
平和のパレード

26日午後の若宮広場での閉会集会には600人が参加しました。韓国・フォーラム平和共感研究員のイ・ジュンキュさんは、極右の国際的連帯を軽く見てはいけないと述べ「対抗する私たちの運動の連帯を強めよう」と呼びかけました。

集会後は、若宮広場から大須商店街を通って上前津駅まで「STOP WAR」「大軍拡反対」などのボードを掲げてパレードを行いました。

平和大会全体では、のべ3000人が参加しました。



## 国連軍縮週間に 愛知県民の会として栄で宣伝

10月26日、今年も国連が提唱する軍縮週間(10月24日〜30日)に合わせ、宣伝行動を行いました。あいにくの雨天により、宣伝と横断幕を持つてのスタンディングだけになりましたが、栄・マルエビル前で行いました。

県原水協代表理事の松田さんと大村さん、佐竹事務局長がマイクを握り「今、日本政府はアメリカの核に頼り、拡大抑止と言っているが核兵器が使われたら人類が滅びて

しまう」、「日本も核兵器禁止条約に参加を」と街ゆく人に訴えました。



## 非核平和行政の推進を 愛知県・名古屋市要請行動

10月24日、愛知県と名古屋市の対して、平和4団体(愛知県平和委員会・安保放棄実行委員会・非核の政府を求める会・県原水協)が非核平和行政の推進を求めて要請行動を行いました。

愛労連の西尾美沙子議長が代表あいさつし、「各地で核の脅威が高まるなか、核兵器禁止条約の重要性が増している。二度と被爆者をうまないために、日本政府に批准するよう愛知県からも声をあげてほしい」と求めました。

大村秀章知事に「日本政府に核禁条約へ署名・批准を求める署名」へ賛同するよう求めたことに對して、県は「個別の意



→愛知県への要請

←名古屋市への要請



思表明は控える」と冷たい対応を繰り返していきま。参加者は「核戦争が起きれば人類は生存できない。日本は唯一の被爆国であり、『非核』を国是としているならば、行政も声をあげることが大事だ」と強く求めました。F35戦闘機や大山市に墜落したT4練習機の事故原因究明が進まないこととふれ、「自衛隊機が離発着する県営名古屋空港は住宅街にある。県は管理者として、安全をどのように確認し、離発着の許可をしているのか」と質問しましたが、県は答えられませんでした。

●唯一の被爆国でありながら、核兵器禁止条約に加盟しない政府に強い憤りを感じます。私は被爆二世ですが、頼りない政府・行政に代わって、戦争のむごさ、平和の尊さについて次世代へ伝える役割、被爆者として亡くなった母の言葉を伝えていきたいと強く誓う機会になりました。(名古屋市・60代)

●私達一人一人の意識と行動が平和へとつながります。(岐阜県・70代)

●地域での「へいわのつどい」「高校生の描いた原爆の絵」の展示などに参加しています。継続することが大切と感じました。

●今、高校生が声を出していることに「力」を感じています。(名古屋市・70代)

●学びと共感の場となりました。

●1人1人が少し先までの平和を守りつづければ、そしてそれをずつ



## 『平和の大切さ、語り継ぐ誓い』 参加者の声

●追体験者として平和運動にかかわっていくという高校生の平和の誓いはとても力強かった。

●午後の企画、予想以上のボリュームと熱量で感動しました。若者の姿が舞台でもフロアーでもめだち、心強く感じました。(扶桑町・60代)

●小さな子どもたちにも伝わるようにみんなに署名を訴え平和な日本にしていきたい。(名古屋市・70代)

●いろいろな事がしれてよかったです。

●私のできることは小さいですが毎日何かを考えながら行動していきたいです。(名古屋市・60代)

●その他にも、ぼこあぼこや八竜リバイターバン

## 2026年版 いわさきちひろカレンダー ～平和へのねがいをたくして



「ちひろカレンダー」の制作が始まった当時はベトナム戦争が激化、日本ではベトナム戦争反対の声が広がるなか、ちひろさんの「ベトナムの子ども、わたしたちの日本の子ども、世界中の子どもみんなに平和を」という大きな反響を呼びました。これをきっかけに「核兵器廃絶、被爆者援護・連帯のちひろカレンダー」が生まれました。

すべての子どもたちの未来に戦争も核兵器もない平和で公正な世界をの願いを広げるために運動を支え広げようご協力ください。

●環境にやさしい紙で綴じるホットメルトを採用  
●大豆を原料とした植物性インクを使用  
●A2判・絵7枚 ●頒価1,650円(税込)  
※25本以上送料無料 ※注文は県原水協事務局まで

## 被爆者をはげます集い

日時:12月20日(土) 11:00～  
場所:保険医協会・伏見会議室  
(名古屋伏見スクエアビル内)

参加費:500円(お弁当代)  
被爆者・大学生以下は無料  
◆被爆者を囲んで懇談を行います。  
◆参加される方は連絡をお願いします。

ドの歌や最後の合唱がとても楽しかった、大きな声で平和の歌を歌って元気をもたらした、などの感想がありました。高校生や若い世代の姿に力をもったとの感想も多く寄せられました。